



Title	第七五回美学会全国大会報告
Author(s)	
Citation	a+α 美学研究. 2025, 16, p. 166-169
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/103424">https://hdl.handle.net/11094/103424</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



の向き合いかたについて、一時間以上にわた  
り語り合つた。

ドキュメンタリー映画における知的障害者  
東志保（大阪大学）

社会の側に障害をかかえる人との映画制作  
工藤真生（九州大学）

映画と〈障害〉をめぐる懇談  
ゲストを囲んでのアフタートーク

### シンポジウム

一〇月一三日（日）に国立国際美術館にて、社会福祉と〈アート〉をめぐるシンポジウムをおこなった。社会福祉の領域においてアートは、個人の心のケアや、社会包摂のように、何かの目的にたいする手段として語ら  
れがちだが、アートはたんなる手段ではない  
という以上に、現実世界に生きる人々の活動  
のうちに融解しているという局面もあるよう  
に見受けられる。本シンポジウムでは、障害  
のある人の創作活動について研究をおこなつ  
てきた服部正（甲南大学）と、金ヶ崎において長年アートを中心とした活動をおこなつて

きた上田假奈代をパネリストに迎えて、議論をおこなつた。

アール・ブリュットの居場所はどうある

わたしを束ねないで。  
上田假奈代（NPO法人こえことばとこころの部屋）

コメントとディスカッション  
田中均（大阪大学）

岩崎陽子（嵯峨美術短期大学）

### ポスター発表会

一〇月一三日（日）国立国際美術館の講堂にて、シンポジウム終了後、ポスター発表会をおこなつた。ポスター発表という気軽なスタイルで、若手研究者にひらかれた場、進行中の研究について報告できる場、気軽に対話できる場とした。人の流れを活発にし、多くの研究に出会える場、多くの反応が得られる場とした。シンポジウム登壇者もポスターをかまえ、来場者と話の継続ができるようにした。二五のポスターの半数ごとに、五分の

閉会式までの時間を利用して「美学会をもっと良くしようフォーラム」を開催した。従来、美学会委員会において学会改革について議論がおこなわれてきたが、委員会に居合させていない会員の声をもっと聞こうという主旨の企画であり、大会のあいだ告知してきた結果、多くの若い会員の参加を得ることができた。最初に、司会の高安啓介（大阪大学）が、どんな意見でもいいが、問題・理想・解決のどれについての意見であるかを明確にしたいという提案をおこなつた。続けてとくにテーマを定めずに、成り行きで意見を出し合つた。

学会の「問題」としては、大会の閉会ま

振返つて

えということで全国大会のプログラム編成について意見があつた。高い会費やフリーライドという触れにくい問題にもおよんだ。学会の「理想」については、学会が一種のコミュニティであるという認識がしめされ、それがどうあるべきかが問われた。問題の「解決」については、学会賞の創設、学生の優遇策、会費以外の財源など、多岐にわたる提案がなされた。古参の会員からも、若手の会員からも、バランスよく発言があつた。忌憚のない意見交換ができたと思う。ウェブサイトから意見を見る能够性があるようにしている。

以前、大阪大学において美学会全国大会がおこなわれたのは二〇〇六年で、もつと早くに大会を引き受けてもよかつたが、大阪大学中之島センターの改修が終わるのを待つていたいた経緯がある。そのため、一年以上前から同僚たちと話し合いを持ち、今回の企画に関係する方々とともに社会福祉とアートについての勉強会をおこなつたりもした。また、西部会でポスター発表の試行をおこない、参加者の意見を聞いたこともあつた。今回の全国大会は、まさに満を持しての開催となつた。押し付けがましくも、開催校の力

マにもとづく当番校企画に全力を注いだ。大阪大学はわりあい教員スタッフや大学院生に恵まれているが、開催校以外の助力も得ることができ、運営面ではずいぶん助かった。今回、新しいやりかたや、新しい企画を幾つも試みることができたのは、関係者の寛大さのおかげである。行き届かなかつたところも含めて、今後の学会に役立てていただけたら幸いである。やるかやらないかではなく、トライ＆エラーの繰り返しによつて学会は良くなれるだろうと信じている。

### ■ 第七五回美学会全国大会実行委員会

高安啓介（大阪大学）  
田中均（大阪大学）  
東志保（大阪大学）  
渡辺浩司（大阪大学）  
西井獎（大阪大学）  
横道仁志（大阪大学）  
里中俊介（大阪大学）  
岩崎陽子（嵯峨美術短期大学）  
三木順子（神戸女学院大学）

美学会大会の準備はたいへんで、どこの大学もやすやすとは受け取れないだろ  
う。今回、紙の要旨集をやめるなどのペー  
バレス化や、弁当の廃止、ハガキ連絡の廢  
止など、従来の手間を少なくしたぶん、テー